



皆様ご存じのとおり、南摩ダム水没予定地内に位置する旧梶又小学校（以下、「梶小」という。）が平成15年度末をもって閉校しました。（3月27日に執り行われた閉校式の様子は前号をご覧ください。）梶小へ通っていた子供たちも新たな小学校へと転校し、先生たちも新しい赴任先へと異動されました。それまで生活していた方々がいなくなり梶小はいつたいていどうなっているのでしょうか。今回は梶小の『いま』をお伝えします。

旧梶又小学校の『いま』

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

思川だより

南摩ダム予定地 (右後方は男体山)

発行所
独立行政法人水資源機構
思川開発建設所
☎028-622-8941
発行人兼編集人
柴田 安宏



水没予定の方々の移転により住家の影が見あたらなくなりました。学校周辺には雑草が生い茂り、小学校はさながら草原の海にぽっかり浮かぶ船のようです。車を停めて、校門の前に置いてある立入禁止の看板を越えて校庭内に入っていくと、なぜか違和感を感じました。主がいなくなってしまうと、経つはずの校庭の庭木がきれいに刈りそろえてあり、学校周辺とは違って雑草類もどこか遠慮がちです。小学校としての役目を終え、手入れする者が誰もいない荒廃した姿を想像していたので、少し寂然としないうちに、校舎内へ入ってみました。

外はカラ梅雨で蒸し暑かったのですが、校舎の中は無人の静けさも手伝ってか、一転してひんやりと涼しく感じました。職員室を見回してみると、以前は確かにあったはずの書棚などが見あたらず、雑然と置かれていた備品類や先生方の机の上がきれいに片付けられており、なんとなく部屋が少し広くなった気がしました。廊下から各教室を覗いてみると、生徒が使っていた机とイスが全て一つの教室に集められ、書棚なども持ち出されています。



旧梶又小学校は思川開発建設所（以下「建設所」という。）が所有しています。思川開発事業を広く国民の皆様にご紹介するための広報活動や地域交流の拠点として、また、地域の環境保全への取組みや試験を行うためです。現在レイアウトを考案中であり、全て完成するのは来春以降の予定です。それまでの間は現在の姿で利用できる範囲で活動を行ってまいります。

旧梶又小学校に最初ののお客様 （昆虫講座に 上南摩スポーツ少年団が参加）

今回は、その最初のお客様として上南摩スポーツ少年団野球部をお招きし、7月18日夕方4時から約1時間「昆虫（蝶）講座」を開催しました。講師は建設所の職員で、「蝶の」と言われるほど蝶が好きで、日本国内のみならず、アマゾンやインドまで蝶の採集に出かけるほどです。講座では南摩に生息する蝶を建設所が調査している事などを始め、講師が経験したアマゾンでの蝶採集や昆虫に関するクイズを出題するなどしました。講座を聴いている小学2年生から6年生の生徒の中には、講師より先に専門用語が飛び出すほどの「昆虫博士」も居たりして、南摩や国内外の蝶や昆虫への興味を更に深めていただきました。地元の皆様や下流のユザーの



利用の問い合わせ先
思川開発建設所
TEL: 028-622-8941
(総務課)

現在改装中のため、内容によっては利用できない場合がありますが、利用されたい団体はご相談下さい。

「ご注意」
今回ご紹介した旧梶又小学校は普段は立入禁止です。また、危険ですので校庭の遊具等には絶対に近寄らないでください。



びっくり! 水資源の 水まめ知識



その⑥「水の日」及び「水の週間」とは？

皆さんは、8月1日が何の日かご存じですか？
 答えは、「水の日」です。水資源の有効性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、昭和52年5月31日閣議了解により制定されました。
 毎年8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする1週間を「水の週間」として下記のとおり各地で水に関する啓発活動が行われています。
 栃木県でも8月3日（火）に「水の週間」行事の一環として、栃木県総合文化センターにて当機構のバネル展示等を行います。また、この他にも中学生の水の作文コンクール表彰式（13時より）や登山家・野口健氏の講演会（14時より）が開催されますので、是非一度足を運んでみてください。

「水の週間」主なイベント

- (1) ウォーターフェア'04東京
 日時：平成16年7月30日～8月3日
 場所：科学技術館（東京都千代田区）
- (2) 第24回ウォーターフェア隅田川レガッタ
 日時：平成16年8月8日11時より
 場所：隅田川桜橋上流～吾妻橋



レガッタの様子（メインのエイト競技）

参考文献 水資源機構HP

☆事業の最新情報を皆様にお伝えします☆ おもいがわトピックス

付替県道基本協定締結

一般県道上久我・都賀・栃木線は、思川開発事業南摩ダム建設に伴って、一部ダム水没区間があるため、栃木県鹿沼市上南摩町字笹之越路地先から同町字杓子沢地先まで、県道の付替えを行います。
 平成16年3月22日に、「思川開発事業の実施に伴う一般県道上久我都賀栃木線付替工事及び改築工事の合併施行に関する基本協定書」を栃木県及び独立行政法人水資源機構にて締結し、現在、鋭意設計を進めています。
 現在の状況は、終点側（杓子沢工区）において、設計が概ね完了し、平成16年6月19日に、杓子沢地区の地権者の皆様を対象にした道路設計説明会を開催致しました。その後、住居の出入り等、直接関わりのある方々を対象とした設計個別説明を行い、設計の見直し作業を進めています。作業が完了し次第、杓子沢地区の地権者の皆様に再度説明する計画です。
 今後設計を進め、随時、関係する方々にご説明させていただきます。
 県道の付替えに伴い、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、今後も、皆様のご意見を設計に反映させ、地域に根ざした道路を作っていくたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

思川開発建設所では環境保全に積極的に取り組んでいく。他の事業の状況把握するため、宇都宮市にあるクリーンパーク茂原の施設見学を行いました。クリーンパーク茂原は、宇都宮市、上三川町、石橋町、上河内町が一体となつて建設



焼却ごみ処理施設全景

（出典：クリーンパーク茂原パンフレット）



クリーンパーク茂原を見学

参加して印象に残った点は、まず第一にゴミ処理施設とは思えない施設外観と緑地を十分に確保したゆとりとした施設配置です。第二には、最新の排ガス処理施設による厳しい排ガス管理や工場入口に設置された排ガス監視表示板による情報公開、専用見学者への配慮など、施設見学プラザにて実施している環境学習など地域・自然との共生を実現するためのハード、ソフト両面での施設等の充実です。第三には、高効率ごみ発電や余熱を利用した施設内及び隣接する健康交流センターへの暖房・給湯の実施、そして焼却灰の溶融スラグ化による再利用など効率的な施設運営が実現していること、クリーンパーク茂原には施設

した焼却ごみ処理施設・リサイクルプラザの総称です。建設計画当初はダイオキシン類などの排出による環境変化や搬入車両による交通への不安などから大変な反対運動があったことから、従来の清掃工場のイメージを払拭し市民に親しまれる施設とするため、「自然との共生、地域との共生、リサイクルの推進」を整備コンセプトとして建設されました。
 施設見学は、まず説明ホールにて整備コンセプトや施設概要と建設地に生息していたオオムラサキの保全に関する説明を受けました。その後、焼却ごみ処理施設及びリサイクルプラザの内部見学を行いました。最後にオオムラサキの保全のために建設地に生育していた樹木をそっくり移植したエノキ、コナラを中心とした造成森林の保全地を見学しました。



すばらしい芝生の広場があり、これらの手入れはここで働く方々が直接行っています。職員の方の話では、ごみ処理施設の構内には、ごみ上で（ダイオキシンや臭い等を気にせずに）食事ができるという事がクリーンパーク茂原の自慢であると語られていました。皆様も一度、クリーンパーク茂原の施設見学に行き、芝生の中や樹木の木陰で昼食など如何でしょうか。

「調整課（東鹿沼事務所）

移転のお知らせ

東鹿沼事務所を8月より下記に移転致します。
 今後ともよろしくお願い致します。

移転先： 宇322-0346
 鹿沼市上南摩187-18
 電話：0289-73-1030（8/6～）